

月 山
「 天 空 石 橋 」
解剖・訴求
(コンパクト版)

二つの切り口！

1. 発見日

2022(令和4)年9月10日(土) 14時30分頃

2. 「天空石橋」の正確な意味合いは次のとおりで、この3点(3名)は切り離せない。

○気づき・発見

宮林良幸^{よしゆき}が最初に気づき、同行していた大沼香と共に発見した。

○命名

大沼香^{かおる}は、一目、天空に架ける石橋と直感し「天空石橋^{しゃつきょう}」と名付けた。

○意味付け

下山後、後方支援の布施範行^{のりゆき}からはもう一つの深意味、羽黒山中興の祖「天宥」の天と、湯殿山開祖「空海」の空とを重ねられた。(天宥と空海は活躍の時代は違えこそ、出羽三山を語るには欠かせない双壁である。)

3. 発見の動機

従来は、万年雪と称された「大雪城」上に誘導ロープを張っていた。しかし、雪が解けると大きな岩が表れ、中には鋭角的なものも露出し、これらを飛び跳ねるように渡って行く区間となることから、融雪後は危険地帯に変化していた。その安全向上対策のための回避ルートを探り、ケルンの積んである旧道ルートを調査する中で発見したものである。

【一つ目の切り口】

「天空石橋」のそもそもの不思議と謎？

1) 地理的特徴

- ・¹山頂から（まで）約 2.5km、標高約 1,733m 地点の豪雪地帯に造立されている。
- ・²「大雪城」の融水が一番多く、その水が遅くまで流れる小川に架けている。
- ・³国立公園、特別保護区内にある。

2) 構造上の特徴

- ・¹長さ約7.5m、高さ約1.2m、幅約1.2mの明らかな人為的・人工的石組みである。
- ・²人工物の鉄線などによる捕縛・金縛りはなく、また、コンクリート等の固着剤は一切使用していない。
- ・³しっかりと石を噛み合わせており、風雨、積雪・残雪の圧力に耐えて少しも崩れていない。

3) 発見時の感想

とても興奮し、二人で「これは何だ？」と驚愕のあまり声も出なかった、初めて出会った時、想像力がまったく湧かなかった。

4) 最大の疑問

誰が、いつ、何の目的でこれを造作したのか？ また、この場所で、かつ、この方角でなければならなかった理由は何なのか？ いまだ不明である。

（旧道ルート上にあって、ここは、樹木はまったく無く、石ころが堆積・散乱している道において、こんなものはなくとも簡単に歩ける・往来できる状態にある。）

5) 疑問解消のための聞き取り

今に生きる地元の長老、地元の土木工事関係者、月山小屋関係者、羽黒町手向宿坊関係者、出羽三山社務所などに、それぞれの人脈で聞き取りを行ったが、

- ・“初めて知った”というのが大半
 - ・“そう言われれば、見たことがあるなあ”というのは数名？（しかし、問題意識を感じなかった。）
- いずれにしても、これだけ目立つ造立物について、現時点でこれらの疑問に答える客観的証拠は何一つ見付かっていない、声を挙げないのが不思議である。

6) T-FMO の捉え方 （※布施のF、宮林のM、大沼のO）

俯瞰大局すれば、修験道の宗教観・思想哲学を深層に、宇宙すなわち天空と、大地の恵みに対する人間の感謝を表す、すなわち、天地人三位一体祭儀の舞台に見立てたのではないかと想像している。

具体化すると、

- A ; 出羽三山総奥の院「湯殿山（御宝前）」を拝む（観念遙拝）祈りの舞台
- B ; 「大雪城」を水源基点と見立て、『水神様』籠る源流聖地への感謝を捧げる祈りの舞台
- C ; 『水』に対する堰堤機能（水量調節・洪水防止に係る一時貯水機能）を託す祈りの舞台

「天空石橋」に対する総括評価は次のとおり。

以上を全体総括の上で、今となっては、

- ☑ 「天空石橋」は周辺景観を損ねる等の実害や環境への悪影響を齎すものではなく、一方で人工的なものである。
- ☑ 今になつては、過去に如何なる事情があつたにせよ、過去の事情を詮索する、爪を立て咎める必要はない。
- ☑ 謎と不思議が多過ぎるが故に、むしろ、様々な謎解き想像力と知的好奇心を刺激する素材の宝庫であると捉える。

よって、今日においては新しい意味付けをすれば良い、今日的価値を付加すれば良い。設置目的の経緯は如何様であれ、明白でない設置目的はさておいて、謎と不思議がギュッと詰まったロマンを掻き立てる素晴らしい貴重な歴史遺構である。（産業遺構とは見なさい）ここは「月山水源聖地Gスポ」、または、「高清水通り“謎の源流Gスポ”」、あるいは、「月山“謎の源流Gスポ”」（Gは great、スポは spot）と通称する。

【二つ目の切り口】

月山ビールの古里を訪ねて見よ！

「①月山ビール」と「②天空石橋(大雪城)」と③湯殿山との親和性、必然的結合性

その1 「①月山ビール」と「②天空石橋(大雪城)」

2025(令和7)年8月23日(土)西川町謎解き関連撮影チーム「Creator's NEXT」社長の窪田望さん以下4名のクルーを案内し、「月山 天空石橋」に行ってきた。

その「天空石橋」に案内することになった際、西川町地ビール「月山ビール」の持参をお願い(提案)し叶えられた、その背景事情をメモする。

☒一つ目のシーズ

西川町地ビール「月山ビール」に係ること。いわゆる、キャッチコピー「**製造水400年** ロマン！」とのつながりのこと。

 西川町 町勢要覧 2008 資料編	こだわり(1) - 名水百選・月山の湧水を使用 月山は、10メートルの積雪も珍しくない、日本有数の豪雪地帯です。 その豊富な雪から生まれた雪解け水は、300～400年の長い年月を経て大地に浸透し、やがて湧水となって戻ってきます。 月山の湧水は一般的な地下水の水温よりもずっと冷たく、ミネラルを適度に含んだ口あたり良い軟水で、日本の名水百選にも選定されています。 (5) 月山自然水製造販売事業 広大な月山の中腹から湧き出る自然水は、300年から500年の歳月をかけて湧き出ています。この湧水が町の上水道の水源で、量も1日2,400tに及び、常時500tの余剰水がでています。この余剰水を利用して、昭和58年12月「月山自然水」として発売しました。 平成4年度からは、第3セクター西川町総合開発株式会社に移管し、平成9年度には月山銘水館に工場を移転して非加熱処理による製造を開始しました。 平成24年度の月山自然水売上本数(1ℓ換算)は、217,525本です。	西川町の関係資料に図・1のとおりフレーズが出て来る。 着目すべきキーワードは、“月山、豊富な雪、雪解け水↓長い年月↓浸透水、湧水、自然水”である。
図-1		

☒二つ目のシーズ

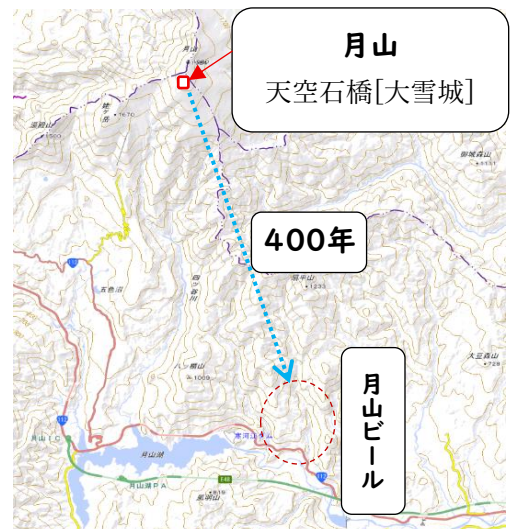
その「月山自然水水源」とのつながりのこと。

しからば、その浸透水(湧水)の水源はどこかとなれば、それらのキーワードを追求すれば、図-2

のおおゆきじろ
のとおり月山最大の残雪地帯「大雪城」(=天空石橋)である。地元西川町を含め山形県内陸部の人達は、遅くまで残る雪を、昔から五穀豊穰・子孫繁栄の源(魔法の水)として崇め祀ってきた。

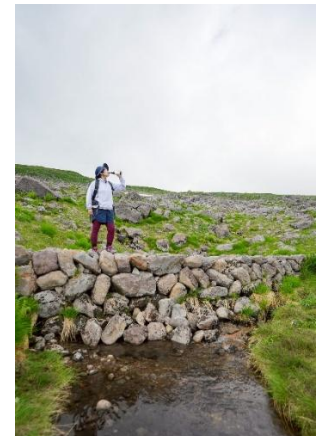


山形市内（山形平野・村山平野）から見た月山



「月山ビール」の水源と醸造所

図－ 2



黒川雄斗さんが撮影した一コマ

図－ 3

この水源象徴が「^{しゃっきょう}天空石橋」！
 ここが「月山ビール生まれの古里」！
 この水の魔法が「月山ビール」

そこで、深秘漂う月山謎の源流Gスポ「^{おゆきじろ}天空石橋」で、「大雪城」をバックに「月山ビール」を飲む
 構図の写真を撮りたい！と思い続けていた、私のかねてからの願望の一つであったことが、ここにおい
 て、図－ 3 のとおりにプロの映像クリエイターから実現して貰ったことはこの上もなく感慨深い。

これらは単なる風景写真ではないのだ、この一時の風景写真で終わらしてはならないのだ。

言わずもがな、ビール醸造において、全体の約90%を占める主要な原料であるその水が、ビールの美味しさを命運付ける重要な要素である。一方で、万物の霊長たる人間の生命初源の胎児は、女性子宮内の液体は水（羊水）で発育する。共通は必需の水である、その水の発生源が、「天空石橋」をシンボルとするここ「大雪城」である。

ここにおいて、**月山ビールと、重要原料である水の生みの親（源）とのご対面を実現させたのだ**。月山ビールが工場（胎内）にいた時に、“私はどこから来たのだ？”と自問していたのだ。その生みの親との対面を、400年の時をワープして実現させた、その自問と悩みを解決に至らしめたのだ。

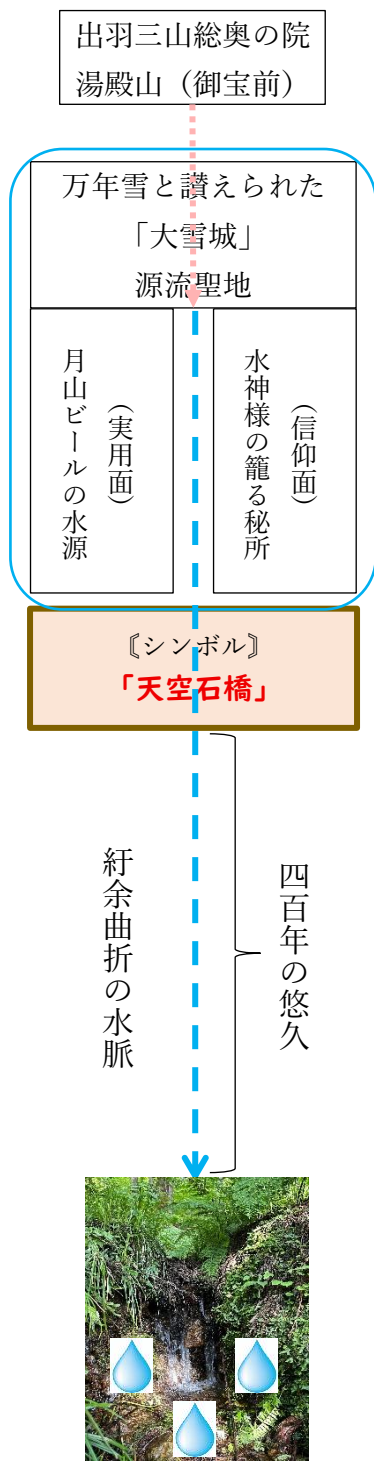
謎満載ロケーション「天空石橋（大雪城）」と、どんな地下水脈を経て、どんなものと出会って400年の時を経て麓に湧水させたのかという不思議満載のカップリング?!

その2「^②天空石橋（大雪城）」と^③湯殿山

図－4 を以って月山・湯殿山との位置関係を再確認する。



湯殿山大権現・月山大権現がお守りする秘所聖地大スペクタクル



キーワードは、
天に誘う「^①奇異靈妙 湯殿山（御宝前）」
大地の水源symbol「^②月山 天空石橋[大雪城]」
人智の傑作「^③創造酒 月山ビール」

この「天地人」三位一体構造（華嚴界シーズ胎動）が
3点セット（①②③）を誕生せしめた
壮大スキームが今明かされた

・ところで、私は現地案内・説明下、まとめの意味で、“ここ現地に
 来て肉眼で確かめ、皆でよってたかって、想像力たくましく、好き
 勝手に意味付け・価値付けを図って、それぞれの物語を創ってい
 くというのはとても面白い謎解きシーズとなるのではないか。”と
 という趣旨で結んでいたが、冒頭記の窪田さんは、ご自身の言葉で
 「自分の考えたことが絶対だということではなく、絶対ではないと
 いうことは、むしろ、他の人が証明してくれることにも、喜びを感
 じるという、ことに**余白**を感じる」と置き換えてくださった。素晴
 らしい表現にしてくれた。謎を余白と捉えてくれたのだ。

・そう、そもそも、この「**天空石橋**」とは**何ものなのか？**

・まだまだ、なぞだらけ、何も解決していないのだ。**それが余白**
だ。余白を埋めるのは、あなた自身なのだ。余白のキャンバスに如
 何様な彩で何を描くかはあなた次第だ！ それぞれの勝手想像シナ
 リオ全肯定の時空が待っている！

ミッション



・ 以って、静止画とドローン撮影動画を組
 合せた観光戦略へ
 ・ 以って、静止画とドローン撮影動画を組
 合せて撮影会のお遊びを
 ・ 以って、その眼光をしかと照射し、今と
 悠久の時空を解剖し、総ての謎を解明せよ
 ・ 月山ビールには、湯殿山御宝前の霊力が
 丸ごと染み渡っているのだ

図－ 5

「補完メモ」

その1

天空石橋と湯殿山を結ぶ直線上の近辺に物理的（地理的）数値としての標高「1816.8」「1696」「1688」が並んで表出した。共通して「1689」の4種類である。この数字が縁を結んだということは何か背後に秘められて意味合いがあると直観した。よって、前記の全体構図は以下の意味合いをも包含したまさに秘所聖地一大スペクタクルと称する所以である。

- ◆「1」は言うまでもなく数理のスタート基点（起点）である。
 - ◆「6」は何かの起動においては、 $1 \cdot 2 \cdot 3$ 、あるいは、 $3 \cdot 2 \cdot 1$ と声がけするが、 $1 + 2 + 3 = 6$ 、 $1 \times 2 \times 3 = 6$ 、つまり、その起動因子 $1 \cdot 2 \cdot 3$ は、加算でも乗算でも6になる。
- また、数理に係る代表的な中国古典「老子」等に宇宙草創について次のように説いている。

老子には、「道は一に始まるも、一にしては生ぜず。故に分かれて陰陽と為り、陰陽和合して万物を生ず。故に曰く、^{いつ}一は二（陰陽）を生じ、二は^三を生じ、三は万物を生ず。万物は陰気を背負い陽気を胸に抱き、この二つを媒介する^{ちゅうき}沖気によって調和を為している。」の記述がある。

〔天地の万物・森羅万象が自然数的に徐々に増加して行くイメージが湧く。〕

起動因子 $1 \cdot 2 \cdot 3$ は、まさに宇宙草創の起動因子なのである。

- ◆「8」は日本では縁起の良い末広がりの“八”、西洋的には90度ひねると“∞”、すなわち無限大、無限の可能性を暗示する。
- ◆「9」は数字1～10の中で奇数の最大値であり、陰陽二元世界観では「陽」の最高位となる。また、6を上下反転させると形が9となり、合わせて、右図のとおりとなり、Six（シックス）・Nine（ナイン）という。三種の神器の一つの勾玉^{まがたま}の合体形象、宇宙の自然原理、陰陽二元をシンボル化した陰陽魚眼図の形象となる。



その2

世の中には根性曲がりという偏屈者がいて、“月山ビールに使用する水は大雪城の融水（浸透水）であると断定したかの言い振りであるが、科学的に証明できるのか？”と言うだろう。

ならば、“月山ビール使用水の一滴も大雪城の融水（浸透水）ではないと、あなたは科学的証明を行えるのか？”と私は言う。

前頁、以上のようなストーリーの私の本意（主意）は、

もちろん誰しもが科学的根拠を以って証明出来ぬものであろうが、地理的（地形的）に月山を俯瞰した場合、湧水地点の地理的場所からして、月山域に降った雨・雪が浸透し、その一部が湧水したものと認識するのは客観視であると考え。この月山→（地下浸透）→湧水⇒月山ビールの繋がりの中で、その月山に象徴的な「天空石橋（大雪城）」を重ねて、これらの一体化を図り、物質性（物理性）に精神性（信仰・宗教性）を加味して、現代風にアレンジした物語を創出したということである。

（T・K－Friends事務局担当 大沼 香）

1枚もの

湯殿山大権現・月山大権現がお守りする秘所聖地一大スペクタクル／魔法のビール（水）生成プログラム
『必然的結合性』

キーワードは、

天に誘う「^①奇異霊妙 湯殿山（御宝前）」
大地の水源symbol「^②月山 天空石橋[大雪城]」
人智の傑作「^③創造酒 月山ビール」

- ・月山ビールの古里を訪ねてみよう！
- ・製造水400年ロマンの謎を解いてみよう！

この「天・地・人」三位一体構造（華嚴界シース胎動）が3点セット（①②③）を誕生せしめた
隠された壮大スキームが今明かされた？

出羽三山総奥の院
湯殿山（御宝前）

万年雪と讃えられた
[大雪城]
源流聖地

月山ビールの水源
（実用面）

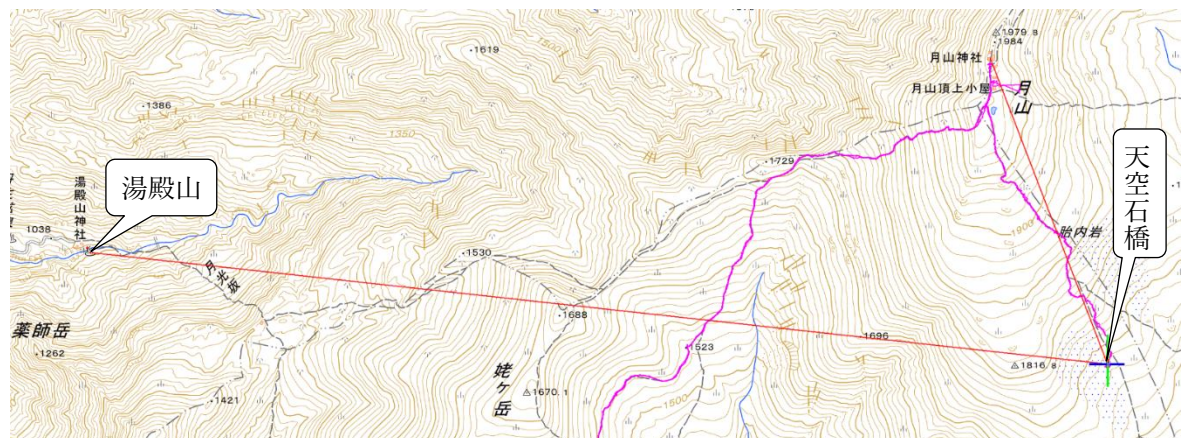
水神様の籠る秘所
（信仰面）

『シンボル』
「天空石橋」

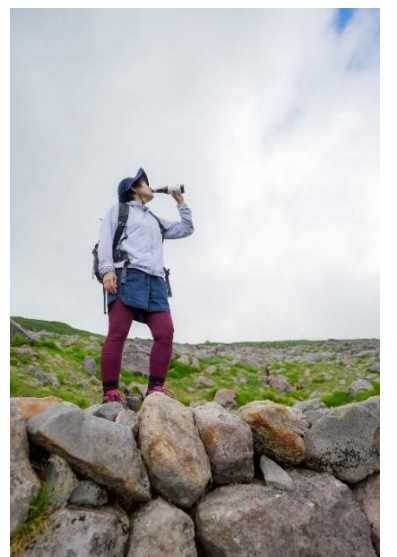
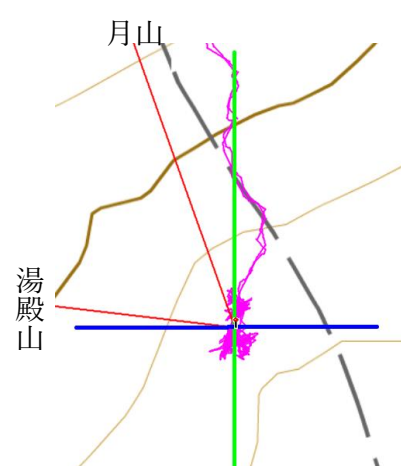


紆余曲折の水脈

四百年の悠久



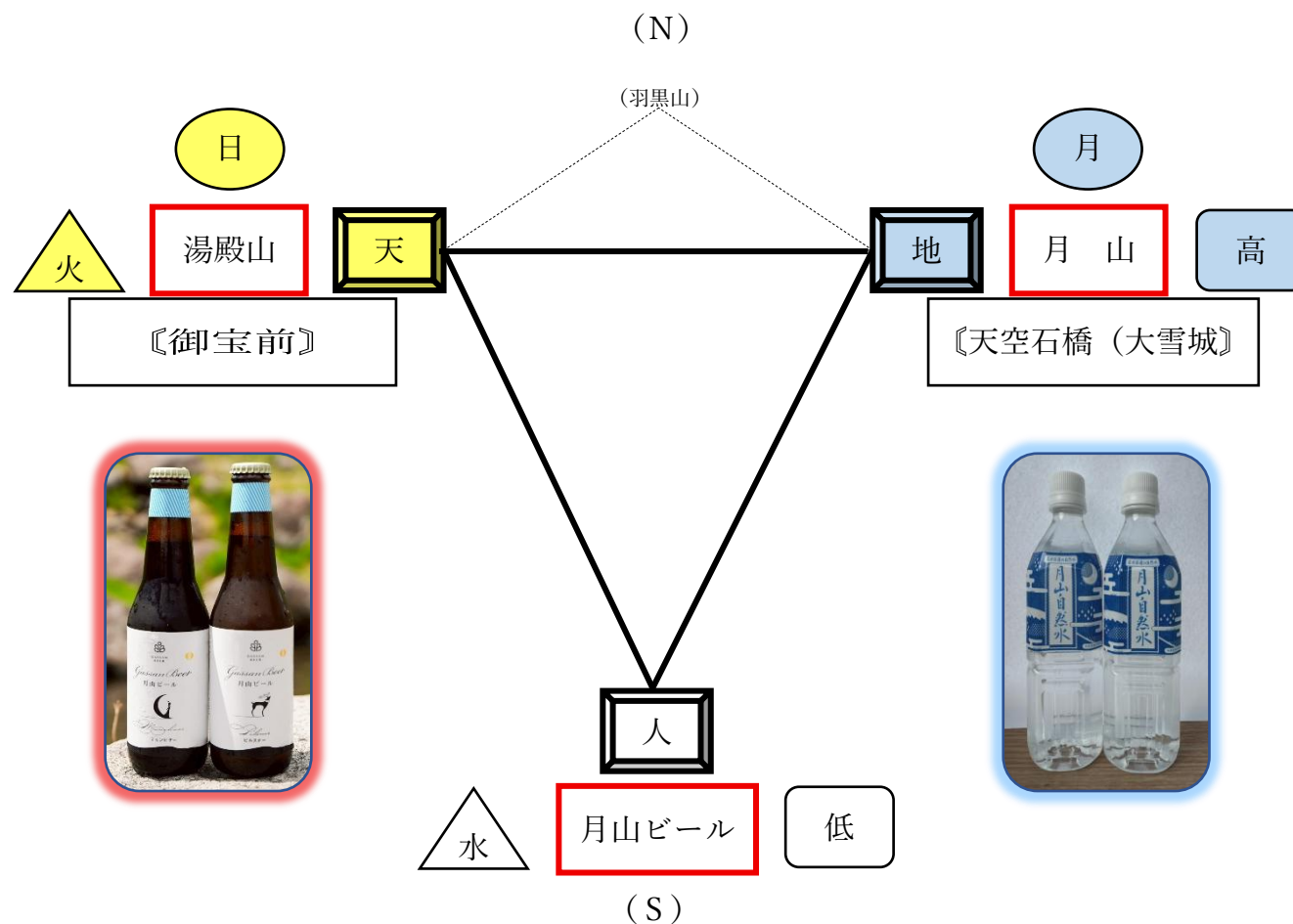
橋に立ち、両手を広げた時の顔ー視線の延長線上の西方彼方にぴったり湯殿山と一致する



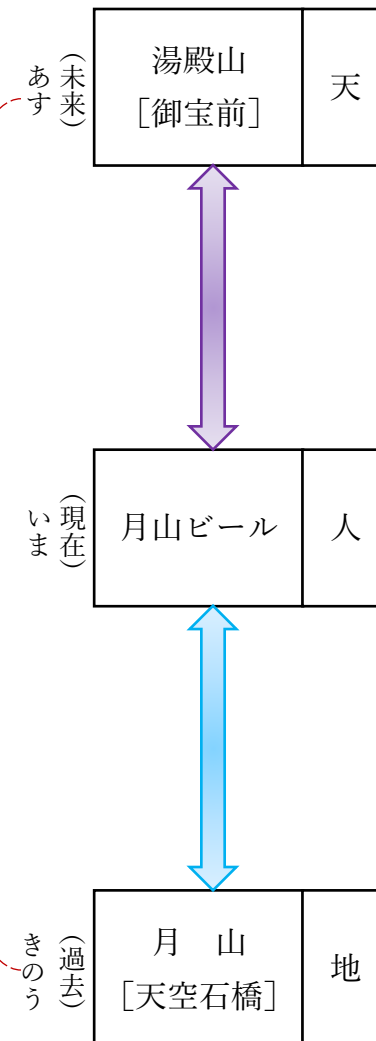
ピンク色はGPSトラックログ（科学的足跡）

月山ビールと、重要原料である水生みの源(親)とのご対面を実現させたのだ
いやいや、まだまだ、なぞだらけ、何も解決していないのだ
それが余白だ。余白を埋めるのは、あなた自身だ！

この秘所聖地一大スペクタクルは 陰陽二元セット三竦み構造
「天 × 地 × 人」三位一体構造 /魔法スキーム



* この月山ビールの かたまり 塊 は、北側の羽黒山相当（羽黒対比）である *



* **天地** の自然循環に溶け込んだ **人間** の智的創造が絶品酒「月山ビール」を生んだ *

「補完メモ」

そんな図柄は個人的なこじつけではないかという疑義に答える。

1) 論理的観点 (含意の推移) の考え方においては、

条件: 「 $A \Rightarrow B$ 」「 $B \Rightarrow C$ 」が成立する場合

→ 論理学では推移律により「 $A \Rightarrow C$ 」が成立する。

逆に「 $C \Rightarrow A$ 」を導きたい場合は、「 $C \Rightarrow B$ 」「 $B \Rightarrow A$ 」が必要になる。

つまり、

「 A ならば B 」「 B ならば C 」→「 A ならば C 」成立

「 C ならば B 」「 B ならば A 」→「 C ならば A 」成立

であるが、仮に A =湯殿山、 B =月山、 C =月山ビールと置いた場合は、論理的に成立しないと見るのは当然のことである。

2) それでは、仏教は華嚴の世界、すなわち、「縁起」の世界観 (思想) で考えて見る。

今、「数列 $1 \cdot 2 \cdot 3 \cdots 10$ において、[Ⓐ]10 は 1 がなければ成立しない、あるいは、[Ⓑ]1 は 10 がなければ成立しない、と判定するのは正しいのか？」ということを命題とする。

一般的な論理思考では、[Ⓐ]は成立するが、[Ⓑ]は成立しないということである。

そこで (しかし)、「縁起」の思想で考察してみる。

⇒「1」は 1 だけで自立しているわけではない、数列という秩序 (全体) の中で「1」と認識される。

⇒「10」も同じ、10 は単に「1 が積み重なった結果」としてだけでなく、全体の秩序の中で「10」と認識される。

したがって「1 があれば 10 があり、10 があれば 1 がある」、換言すると「1 がなければ 10 はない、10 がなければ 1 はない」 (1 がいないということは 10 はない、10 はないということは 1 はない) となる。つまり、どちらか一方だけでは、相手の存在が成立しない。

これは縁起思想そのものの「存在は自立的にあるの (自性) ではなく、相互依存によって成り立つ (他性)」という考え方に依拠するものである。

簡潔にいうと、「一つのもの (1) と全体 (10)」と「全体 (10) と一つ (1)」は相即している (相即相入・相入相即、一即多・多即一) と表現する。

以上を踏まえて、湯殿山 (日、火) と月山 (月、高) と月山ビール (水、低) を見た場合、この 3 点の領域は出羽三山信仰と一体であることから、相互依存においては切っても切れないという華嚴界関係性を適用したものである。論理学や物理学では説明出来ないかもしれないが、精神文化の切り口からは「陰陽二元セット三竦み構造・「天×地×人」三位一体構造」が見えて来たということである。

(end)